

原子力委員会
第30回市民参加懇談会議事録

1. 日 時：平成19年11月8日（木）15：30～17：30
2. 場 所：虎の門三井ビル地下1階 原子力安全委員会第3会議室
3. 出席者
 - (市民参加懇談会) 中村座長、浅田委員、新井委員、小川委員、小沢委員、東嶋委員、吉岡委員
 - (原子力委員会) 田中原子力委員長代理、松田委員、広瀬委員
 - (内閣府) 黒木参事官、西田補佐
4. 議題
 - (1) 市民参加懇談会 in 横浜の開催結果について
 - (2) 今後の地域市民参加懇談会の開催について
 - (3) その他
5. 配付資料
 - 資料第1-1号 市民参加懇談会 in 横浜の開催結果（案）
 - 資料第1-2号 市民参加懇談会 in 横浜のアンケート結果
 - 資料第1-3号 市民参加懇談会 in 横浜議事録
 - 資料第2号 市民参加懇談会 in 富山の開催について（案）
 - 資料第3号 今後の地域市民参加懇談会の開催について（議論用）
 - 資料第4号 第29回市民参加懇談会議事録

中村座長 それでは定刻でございますので、始めさせていただきます。第30回になります市民参加懇談会。

先日は横浜、皆さん、ご苦労さまでございました。きょうは、先日の横浜の開催結果を受けまして、原子力委員会の方に市民参加懇談会として報告をいたしますので、その確認をさせていただくとともにin横浜を振り返ってみたいと。それから、次に予定しておりますin富山の詳細を皆さんと打ち合わせ、そしてそれ以降の地域における市民参加懇談会についてもお話をていきたいと思っております。

きょうは、出光委員、岡本委員がご出張で欠席、東嶋委員が少しおくれるということでございますが、始めさせていただきます。

では、まず最初に、事務局の方から資料の確認をお願いします。

事務局 それでは、資料の確認をさせていただきます。

議事次第と座席表が1枚、それから資料第1-1号といたしまして、市民参加懇談会in横浜の開催結果（案）でございます。また、資料1-2号といたしまして、市民参加懇談会in横浜のアンケート結果、資料第1-3号といたしまして、市民参加懇談会in横浜の議事録でございます。また、資料第2号といたしまして、市民参加懇談会in富山の開催について（案）、それから資料第3号といたしまして、今後の地域市民参加懇談会の開催について（議論用）ということでございます。また、資料第4号といたしまして、前回、第29市民参加懇談会の議事録でございます。また、席上配布といたしまして、前回の市民参加懇談会in横浜に関する新聞記事等の切抜きを配布させていただいております。

配布資料といたしましては、以上でございます。

中村座長 お手元の資料、不足はございませんか。

それでは、早速、市民参加懇談会in横浜の開催結果を検討してまいりたいと思いますけれども、最初にちょっと申し上げましたように、ちょうど資料の1-1、今、案になっておりますけれども、きょうここで審議いただいて、その結果は13日の原子力委員会定例会に市民参加懇談会として報告をするという形になります。

そこで、開催結果について、事務局がまとめた書類をごらんいただきながら検討してみたいと思います。

では、事務局、説明をお願いいたします。

事務局 市民参加懇談会in横浜の結果につきましては、資料1-1号から資料1-3号まででございます。

資料1-1号につきましては、11月13日の原子力委員会に事務局の方からご報告させていただきたいと考えてございます。

また、後日でございますけれども、資料1-2、1-3と合わせまして、原子力委員会のホームページに市民参加懇談会in横浜の結果といたしまして、これらの資料をホームページの方に掲載をさせていただく予定です。

資料1-1号でございますけれども、当日のやりとり等を事務局の方で簡単にまとめさせていただいたものでございます。

当日の参加者は、合計117名、プレスとしては9社がご来場いただいております。やりとりの概要につきましては、委員の皆様が実際にやりとりをされておりますのと、

事前に読んでいただいているということで、中身につきましては省略させていただきたいと思います。

また、当日、ご参加いただいた皆様からアンケートをとりまして、その結果が資料1-2号という形でまとめさせていただいている。

アンケート調査の結果でございますけれども、内容について、大体満足したというの34.8%で最も多くなってございます。大体満足した以上の方々で大体約6割というパーセンテージになってございます。

その理由でございますけれども、「大変満足した」あるいは「満足した」という方々の中では、やはり柏崎の地元の方々のお話を聞けたのが非常によかったというようなご意見が非常に多くございました。

また、今回、パネリスト等として参加された方々のそれぞれのご意見が聞けたという形でも好評でございました。

次の2ページ目でございますけれども、「だいたい満足した」というようなご意見の主な理由といたしましては、原子力の現状についてはわかりやすかったと。しかし、実際の対策についてなかなか見えてこない部分があったというようなことがございましたが、立地地域の生の声が聞けた、あるいは柏崎の状況がわかったという形でご好評といいますか、そういう声が多うございました。

また、会場からの質問の時間が若干不足したというようなご意見もいただいてございます。

また、「ふつう」という見解の方の理由でございますけれども、例えば横浜で開催する意味をもっと出してよかったですのではないかと思うというようなご意見もございました。

また、3ページ以降ですけれども、ここでもまた会場からの質問の時間を多くしてもよかったですというようなご意見がございました。

また、議論の中でもう少し議論が必要であるとか、あるいは焦点が、特に会場とのやりとりのところで焦点が若干ぼけたのではないかというようなご意見もいただいております。

また、3ページで、「あまり満足しなかった」というようなご意見の方の理由といたしましては、原発の危険性に全く触れられていなかったというようなご意見もいただいております。また、議論が余り収束しなかったというようなご意見もございました。

また、参加者の少なさについて、もっと小規模の会合を多く持った方がいいのではないかというようなご意見もいただいてございます。

また、原子力を批判しない話題への誘導とか、答えのわかっている懇談会だというようなご意見もいただいてございます。

あと4ページの方でございますけれども、「不満」というようなご意見をいただいた方の理由といたしましては、想定を上回る地震に見舞われた原発の安全性、廃棄物の処理とかミサイルを打ち込まれたときの安全性について聞けなかったというようなご意見をいただきました。

また、もう少し違った意見の人を選んでほしい、やらせか実績づくりと思ってしまうというようなご意見も出てございます。

2. でございますけれども、本日の市民参加懇談会in横浜の開催時間についてのアンケート結果でございますけれども、「適当だった」というのがほぼ50%近くでござ

いまして、「やや長かった」、「やや短かった」を含めますと大体同じようなパーセンテージでございます。ただ、具体的な意見として出てきたものの中では、やはり後半の参加された方々のやりとりが若干短かったのではないかというようなご意見が少し出てきております。

また、3.でございますけれども、今後の市民参加懇談会の活動について、あなたはどう思われますかということにつきまして、「期待している」、「まあまあ期待している」以上のもので全体8割ということで、市民参加懇談会の活動につきましては期待が多いということでございます。

また、4.でございますけれども、市民参加懇談会in横浜の開催を何で知ったかということにつきましては、原子力委員会のホームページ、新聞報道というのでありますけれども、友人・知人からというのが最も多いということです。

最後の5.でございますけれども、本日の原子力委員会市民参加懇談会で最も興味深かった意見、お気づきの点などということにつきましては、この中はやはり風評被害の大きさというのを消費地域の方々は知って、非常に印象深かったというようなご意見が非常に多かったという形でございます。

また、地元の方々のご意見発表の中では、新野さんあるいは内藤さんという方の意見が非常に参考になったというようなご意見も出ておりました。

また、推進派の意見が多かったというようなご意見も出てございます。

また、7ページの方でございますけれども、立地地域の人がいろいろ勉強していることに当たり前だが感心しました。それに比べて消費地域である首都圏の人々は何も知らずに電気をむだ遣いしていることに問題ないのか、考えさせられましたというようなご意見で、立地地域と消費地域の意識の差といいますか、そういった重みも理解していただいたというようなご意見も出てございます。

また、ご意見の中では、やはり原発の耐震安全性の議論が進まなかつたのが残念というようなご意見も出てございます。

また、7ページの中の中盤の意見としまして、費用対効果がアンバランスではないかと。例えばもっと横浜市と共に催して、もっと広報して人を集めるべきではないかというようなご意見もいただいてございます。

また、8ページの方にちょっと飛ばせていただきますけれども、当日の議論の中では、風評被害については知識がないのが悪いといいますか、余りよろしくないというようなご意見があったんですけども、例えば参加者の中では風評被害は無知な人が悪いということに関する反感といいますか、それに対しまして、実際は知識のない人がほとんどであるというようなことで、そこをどうするかというのが問題ではないかというようなご意見も出てございます。

また、原発の耐震安全性につきましては、Cクラスの設備の被害は別にほつといてもいいのかというような疑問点も提示されているところでございます。また、ぜひ市民参加懇談会を柏崎でもやって市民の声を聞く機会をつくってほしいというようなご意見も出されてございます。

また、市民参加懇談会につきまして、参加者の知識レベルが違い過ぎるのではないかというようなご意見もいただいているところでございます。

それから、情報提供・収集のあり方につきましては、9ページの方でございますけれ

ども、正確な情報の必要性、原子力についての教育をもっとすべきではないかというようなご意見もいただいております。

当日、参加いただいた一般の参加者の方々の構成でございますけれども、年齢といたしましては、四、五十代の方が最も多くて六十代も含めますとそれでほとんど8割以上でございます。性別につきましては、男性が8割というような構成でございました。

一応当日の市民参加懇談会 in 横浜の結果につきましては、以上、簡単にご説明させていただきました。

以上でございます。

中村座長 皆さん、メール添付の資料でもごらんいただいたと思いますけれども、資料の1 - 1ですけれども、開催結果（案）、事務局でサマリーをつくってもらいましたけれども、これを最終的に原子力委員会の方に報告をするという形になりますので、この表現、内容等についてご意見がありましたら、この場で申し出いただければ、修正可能なものは修正をいたします。きょうを過ぎるとそのまま、この案のまま報告になりますので、何かございましたらお聞かせいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

吉岡委員 4ページから6ページまで矢印、黒丸というのはどういう意味なのか、この矢印がちょっと。

中村座長 一番後ろに注がついていますけれども、一応黒丸がご意見発表者からの発言、それから白丸が会場参加者からの発言、矢印は専門委員からの発言。

吉岡委員 変えた方がいいんじゃないですか。矢印だと質問への回答という一般的な意味があって、それだと逆じゃないかという気がする。

中村座長 そうですね。それは三角形か何か、星型でも何でもいいけれども。報告するのは委員会ですけれども、ホームページに載せるときにそういうつまらないところで余計なことを考えられるのもあれですから、何かそれは考えましょう、ひし形でも何でもいいです。

事務局 工夫いたします。

中村座長 バツにだけはしなでください。

内容的には、大体網羅されていて、ポイントは押さえてあると思います。

はい、小川委員。

小川委員 この開催結果の報告は、そのとき話し合われた事実をこういうふうに出てきたということだと思うので、それは構わないです。ただ、テーマが中越沖地震から学ぶですから、あの地震での発電所がとまったことで、電力の需給問題が相当都市部では逼迫してきたという状況があったので、原子力発電所の現在の役割ということについて、それから需給の問題、これからエネルギーの中の原子力発電ということについて、都市部の横浜市民の方にももうちょっと考える提案があって、その時間があってもよかったですかなと思います。そういう考えをこの報告に書くのか、別で全体の課題にするのかですけれども。

中村座長 報告書は報告ですから事実関係を述べるだけで、委員の考えを載せるつもりは基本的にはありません。今のご意見は、内容はごもっともなんですけれども、最初のところからそれは提案してもらわないと。

小川委員 なるほど。私は横浜に決める時に電力供給の問題もあると申し上げたつもりだったんですけれども、消費地の人たちに原子力発電の役割というのをもっと考えてもらいたいなという。

中村座長 今は、この原子力委員会に市民懇として報告をする開催結果報告書についてご意見を伺っているという段階ですので、それを片づけていきます。

資料 1 - 1、報告書としてよろしいですか。本当は毎回多分座長が行って報告しなきゃいけないんでしょうけれども、毎回、毎回多分時間をとれるとも限らないので、総意をまとめた形でこういう文書にして、事務局経由で市民懇クレジットで委員会で報告という形をとらせていただきますので、その点、ご了承いただきたいと思います。

では、これはこれとして、今、ちょっとお話が出ましたけれども、アンケートですか、改めてこの当日のやりとりの議事録をごらんになってお感じになることということころで、早くも小川さんからそういうお話が出たんですけれども、その辺はどうでしょうね、ほかの方はどうにお感じになりましたでしょうか。

新井委員 どうやってその話を持ち出すかということでしょうね。

小川委員 東電さんの中にありましたですよね、地震の結果といいますか、影響として電力需給が逼迫しましたということ。反省的にではあります。

新井委員 それを受け、要するに会場からの意見がほしいということになるんですか。

中村座長 だから最終的に我々の開催意図としては、生の声を聞いていただいて、どういう被災状況であったか、原子力発電所とのかかわりはどうだったかを聞いていただいて、自分たちの問題として考えていただきたいという趣旨はあるんですが、座長としては、小川さんの言うように、ある種誘導的にこれを考え方、あれを考えるとやる気はもともとありませんでした。ですから、そういうふうにしませんでしたし、そういう時間もとりませんでしたというのが基本的なスタンスです。それをやるならば、今回とはまた別にやらないといけないと思うんですけれども、今回の趣旨は、とにかく生の情報を身近に受け取ってもらうということだったと思うので。

新井委員 例えば横浜市民の方はいらっしゃったんだから、直接お聞きになればよかつたのでは。

小川委員 発言する時間が何か余りにもなかったので。

新井委員 それが本旨にあるんなら、横浜市民の代表の方にどう思っているか聞いてもよかったですよね。

小川委員 もし時間があれば。

新井委員 それは私もわからない話じゃないし、時間のことは。でも今それを問題にするのはいかんともしがたいんじゃないかなということです。

中村座長 浅田さん。

浅田委員 私も同じようなことを感じました。横浜市民の方は、余り原子力に関する知識もお持ちでなかった、そしてかみ合わなかったということも事実でして、しかし、それはまた事実なので、今後の懇談会に生かしていくこともあるし、またその知識をお持ちでなかったということが風評被害にも関係していったのではないかなという思いがありましたので、そのところはちょっと質問したいなというふうに思いましたけれども、全体のバランスから見て時間がないと思いましたので、質問は控えましたと

いうことはあります。

中村座長 この後、富山を考えるときの材料としても、一つはやっぱり1部がちょっと重過ぎたというかウエイトが取られ過ぎちゃったという部分はありますね。だからそれは富山にまた活かす必要があるかと思うんですけれども。

吉岡委員。

吉岡委員 横浜でやる意義について、私としては、核災害が起こり得るところだというふうな問題意識を持っていて、当日も私の発言につられてフロアから発言が出ないかと思って、横須賀を母港にする予定のジョージ・ワシントンの話ですとか、対テロ戦争には報復もありうるし、港での核爆発はありうるという話をしたんですけども、そういう発言に対してリアクションがなくてがっかりというようなところなんです。しかし、核防災という観点が全体として余りなかった。横浜の人や、フロアにいた他の町の人もそうですけれども、パネリストにも案外その観点が少なかったようです。もちろん、工藤さん、須田さんはそれを中心に話されて、あと新野さんもそうなんですけれども、ほかの方が核防災という観点からはどうもずれていたというようなことで、だから私としては前々から言っているように、この一連の、まだ1回目だと思うんですけども、中越沖地震に学ぶというようなシリーズ、このシリーズで何回やるかわかりませんけれども、これはやはりこの際、核防災についての認識を高めてほしいという、問題意識だけでも高めてほしいというのが、私としては最大の目的にしたいと思っているところなんですけれども、余りその議論がなくて、どうも風評被害論や報道の貧しさというようなところにばかり流れたというようなところが、私としては脇道ばかり歩いてしまったなというような感じがしないではありませんでした。

とりあえずこのぐらいです。

中村座長 必ずしも風評被害とかメディアとのこととかというのは、必ずしも脇道ではなくて、一般の方にとっては、やっぱり核防災というようなことの方が遠いことだったんではないでしょうか。だからその辺の注意を常に吉岡委員が喚起をされるというのは大変結構なことだと思うんですけども、ただそこで議論まで求めるかとなるとやっぱりなかなか難しいし、それをしつこく誘導するというか意見を求め、求めというと、これはやっぱりちょっといやらしくなるなというふうに僕自身は思っていますけれどもね。ですから、事前のときもいろいろ吉岡委員からもメールでご意見があったのを承知していますけれども、我々専門委員の立場で意見交換の場で東京電力なり行政当局なりに質問するという形でやるのがいいんじゃないですかというコメントをしたと思うんですけども、まさに吉岡さんのお話はそうだったと思うし、小川さんのおっしゃっていることについても、形としてやっぱりそうやるべきであったと思っています。全体の進行の中でそれをあえてというのは、多分今後も私が座長である限りはしないだろうというふうには思いますけれどもね。そういうものをメインテーマに決めたときは別ですけれども、特に今回、この中越沖地震に学ぶシリーズでは、それこそそちらの方は隠れテーマというか二次テーマになって、やっぱりいろいろな地域の方にとにかく柏崎刈羽の生の声を聞いていただき、それをどう受け取っていただくかというのがやっぱりこのシリーズのポイントなのではないかというふうには基本的には思っております。

吉岡委員 了解なんですけれども、1点だけ追加でよろしいでしょうか。

事務局へのメールで、二、三日前に書いたんですけども、風評被害という言葉、私、

昔から相当違和感があって、人為的被害なら加害者があるというような相当きつい概念なんじゃないかと思います。犯人は何なのかということにへたしたらなります。それは誰かのアンケートにも書いてありましたけれども、東電とマスコミと一般市民、都会人が悪いということになる。しかし加害者扱いにされるというのはとても変な感じなので、そういうふうに問題を認定してよいのかということが相当大きい。それと、なぜ風評被害と言われる現象が起こるのかというと、これは差別と同じで、差別をしたいから微細な差異を見つけてするわけであり、差別することが目的ですから、放射線の正しい知識がどうであろうが、それはそんなことで解決されるような問題ではないと。ですので、科学社会学を研究する者の立場として言いますが、風評被害なるものを問題にするなら、その辺の、そこまで突っ込んだ議論が必要なんじゃないかなというふうな気がいたしました。

新井委員 しかし、一般的な形でそこまで突っ込んだ議論なんて、学者さんでやっていただくのは結構ですけれども、新聞とかメディアというのは常識の範囲で議論をやっているんですから、それを学者の方がそういう形で否定しているのは、余り僕は意味があると思いません。風評被害がないとおっしゃりたいんですか。

吉岡委員 風評被害と言われたら、さてどこがそれでどこがそうじゃないのか分からない。被害のあるものは多分人為的なものであると思うんですよね。被害の原因というのは、天災による原因の部分と人為的要因の働くものというのが両方あるので、その後者の一部をあいまいにばやけた形で風評被害と呼ぶということについては変だと思うけれども、別にそれ自体に抗議しようと私は思いません。どうぞおやりくださいということであります。

中村座長 言葉の定義の上では意味のあいまいさみたいなのは確かにあるんだけれども、実際にそれがいわゆる社会通念上、流布されていることですよね。そのこと自体に問題も当然あるんだけれども、ただ、いわゆる風評被害というものについては、今回の場合は、地震災害ということと、原子力災害ではなかったんだけれども原子力発電所があるということがミックスされていると思うんですけども、この問題を全部とっぱらって考えても、例えば大洪水だとか津波に襲われたとかいう場合でもやっぱり出るんですよね、似たような現象というのは。だからそのところは、本当に学問的に、社会学的に検証する余地も十分にあることなんだろうとは思うけれども、そのことがどうのというよりも、やはり実態として内藤さんが言われたようなことがあると。被害だから加害者がどこにいるんだみたいな話は大して詰めなくてもいい話で、あいまいな部分はあいまいな部分だけれども、実態としてそういうものがありますねということをまず共有するというところで、無理やりその加害者を見つけようとすると、望む方向へは行かないわけですね。国だ、電力だ、メディアだった、単に無知が原因だみたいな話になつて、これはまた拡散していく話なので、余りそれを社会学的に追及をしても、市民懇談会の場としてはちょっとふさわしいかどうかというのは疑問だなという感じはしますけれどもね。

ただ、問題を提起され続けることは一向に構わないと思うので、それはまた次の機会でもその次の機会でも発言されることはもちろんとめませんし、私自身も最初に言ったように、本当に被害の実態というのが、単に地震のあったところで余震が怖いから行きたくないという話だったのか、それともやっぱり原子力発電所が被害を受けているから

だったのか、これはもう結論出ていないんですね。多分これからも出ないだろうし。

吉岡委員 被害者の顔を見てコミュニケーションをとるのが面倒とかつらいとか、避けたいというのもあるんですね。

中村座長 逆に言うと、それだからこそ身近に柏崎刈羽で被災した人に会ってもらいたいというのが今回の開催の最大のモチーフだったろうとは思うんですよね。そういう点では、アンケートを見てもその点だけは評価されているので、ほかは気にくわないアンケートの内容もありますけれども、そこだけは一応意図は伝わったかなと思っています。

というあたりで、東嶋さん、ちょっとおくれられたけれども、一応 in 横浜の反省というか感想というか、その辺を今ちょっとお聞きした段階です。

何かございましたら。

東嶋委員 私自身は、柏崎のいろいろな立場の方のお話を聞いて非常によかったと思います。この満足した、満足しなかったといった会場の方のアンケートの結果を見ますと、満足した方は、基本的に市民参加懇談会がいろいろな方の意見を聞く場だとわかっているらっしゃって、いろいろな人の意見が聞けてよかったですと言っているらっしゃるようですが、満足しなかった方の方は、例えば安全性についての説明が少なかったとかというふうな意見があって、ちょっと市民参加懇談会そのものの広聴という趣旨を余り理解されていない方が不満という意見を持っていらっしゃるのかなと思いました、ここのことろ、最初にチラシを配る段階で市民の声を聞くというのをもう少し何か特徴を打ち出した方がいいのかなと思いました。

それだけです。

中村座長 そのところ、確かに僕もアンケートで気になったのは、両方あるんですね。我々の趣旨をやっぱりちょっと理解していただいているのと、参加する時点で既にどちらかというと原子力推進の意見をまとめる会なのかという色眼鏡と、それからもう一つ、もうちょっと危険性や何かについてするどい指摘をして、言ってみれば慎重派サイドからの集まりの色彩をもっと強くという意見と、両方あるんですね、これ、アンケートで見ると。このどっちの人が不満なんですよ。大体不満の方はこの両方になっているようなのです。だから1つは、改めて開催案内のときにそういう「市民参加懇談会はこういうもの」というのはあってもいいなと僕も思いますね、そのところは。

浅田委員 このちょうど真ん中に、市民参加懇談会は、参加の皆様が主役、発言者、会場参加者からご意見を伺う会ですと。

中村座長 それをもうちょっと強調してもいいね。我々の顔写真なんか要らないから。ですから、もうちょっと呼びかけ風にキャッチをもうちょっと大きくして、とにかく皆さんのが声を出してくださいと、それを聞きに我々が行くんですよということを強調してもいいよね。

浅田委員 噴出しにしますか。

中村座長 それは工夫だけれども。我々の顔写真はいいでしょう。その写真を見たからといって、この人が来るなら行くかと思うかどうかというのは二の次だから。

東嶋委員 木元先生が広聴という言葉を使われて、広く聴くという、ですから、そこをやっぱり、例えば何々の意見を聴く会ですと書いてあったんですね、チラシに。聴く、

広聴会ですみたいなような言葉はいけないんですか。広聴という言葉をやっぱり入れた方がよいのではないか。このアンケートの中で、もちろん定着していないといえば定着していないんですが、広聴という言葉は。

浅田委員 コウチョウ会ってありますよね。

中村座長 それは字が違う。公の方だから。広い方は造語でしょう。だからその言葉を使うかどうかにしろちょっと工夫が要るのと、もう一つは、年明けにまたありますけれども、ご意見を聞く会というのがまた別にあるでしょう。その辺との混同もあるので、単にご意見を伺いますというだけだと、我々のオリジナリティーというのは余り伝わらないかなと思うので、そこはちょっと工夫が要るかもしれませんですね。我々いわゆる懇談会メンバー、専門委員がじかに生の市民の声を聞きに行くんですよと、ぜひご発言くださいねというニュアンスをもうちょっと強めてもいいかなと。

今回のというか、中越シリーズの場合は、もう少し我々も一緒になって聞くという立場の方が強いんだけれども、基本的な市民参加懇談会のあり方としては、我々の役目、専門委員の役目はそれだから、より深い理解を得たり、より発言を活発化するために我々は出かけていきますよという意味なので、その辺はもうちょっと強調してもいいかもしないですね、募集の段階からね。ちょっとはっきり言ってつまらないチラシだよね。積極的に何かありそうだなと余り思えない、真面目過ぎるというかかた過ぎるというか、何かいかにもお役所が配ったんじゃない、これみたいな感じなので、漫画にしろとは言わないけれども、もうちょっと何か工夫がほしいかなとはいつも感じるんだけれどもね。何か素っ気ないでしょう、これは。

浅田委員 でも真面目だなど。

中村座長 真面目はいいんだけれどもね。

浅田委員 お金もないだろうなって。

中村座長 それはある。むやみにそんなものでお金を使うとまたそれはおしゃかりを受けるから、そういう意味ではないんだけれども、もうちょっと表現の工夫は必要かなと感じますね。それは前向きに検討していただきましょう。

それでは、一応 i n 横浜についてはそのようなところでよろしいでしょうか。この後、富山なりその後なりを検討するときにまたこの反省を踏まえてというのは出てくるかもしれない、その辺はその辺でまたご発言いただければ結構だと思います。

それでは、資料 1 - 1 になっております開催結果（案）、（案）を取って 11 月 13 日の原子力委員会定例会に報告をさせていただきます。

では、続いてのテーマなんですけれども、次回はこの中越沖地震に学ぶシリーズについては、富山市での開催が決定をしております。メールのやりとりがあって、日程の方も決まってちょっと全員参加というわけにはいかないようですけれども、事務局が一応開催案をつくってくれていますので、その辺をちょっとお聞きして検討に入りたいと思います。

それでは、i n 富山の開催案をお願いします。

事務局 それでは、資料第 2 号につきましてご説明をさせていただきたいと思います。

開催日時でございますけれども、各委員の先生方のご都合をお聞きいたしまして、19 年 1 月 13 日、木曜日の午後という形で、この日時が一番皆様ご参加いただけるということで、フィックスをさせていただければと考えてございます。

場所は富山市でございまして、会場は富山市内のホールがこの時間であればとれそだということで、その時間帯を押さえさせていただいてございます。

開催テーマにつきましては、原子力～知りたい情報は届いていますか～「新潟県中越沖地震に学ぶ」ということで、横浜に引き続いでこのテーマを考えさせていただいているります。

招へい候補者でございますけれども、柏崎刈羽村住民代表という形たちでお呼びしようと思っております。今回、横浜の方で来ていただきました新野様でございますけれども、実はこちらの方からアプローチをさせていただいたんですが、年末のこの時期はかなり忙しいということでございまして、かわりにその地域の会の副会長の方をご推薦をいただいているところでございます。アプローチをして可能であれば、出ていただければということを考えてございます。

また、前回と同じように東京電力、また、富山市の住民代表を入れるかどうかという形たちにつきましては、柏崎刈羽の話を中心に伺うということであれば、柏崎刈羽の住民代表だけでいいのかもしれません、そこは今回、ご議論をいただければと考えてございます。

また、富山の自治体、市民グループなども入れるかどうかも含めまして、きょう、ご議論いただければ。また、東京電力以外に北陸電力の方を入れるかどうかことも本日ご議論いただければということを考えてございます。

また、地震耐震の専門家、放射線の専門家ということで、前回、入倉先生、松原先生に来ていただきまして、次回もいかがかということで、実は事務的に入倉先生、松原先生にアプローチをしてみたんですが、13日はちょっと都合が悪いという連絡が今のところ来てございます。

開催プログラム案につきましては、基本的に横浜のプログラムを踏襲するような形でございます。ただ、今回の反省点を踏まえまして、どうするかということにつきまして本日ご議論をいただければということを考えてございます。

参加募集人数につきましては、横浜と大体同規模程度を考えてございます。

一応、富山の概要につきましては以上でございます。

中村座長　という概要案なんですけれども、事務局の方から私の考えをメールで多分皆さんのお手元に行っていると思いますけれども、きょう、この場で議論をするためにあえてかなり大胆な構成案を私は提案をして、それを若干調整する形で今事務局がつくれてくれているんですが、私の極端な意見と、今回の事務局案のバランスをうまくとつて、どの辺で富山はやったらしいかということなんですけれども、横浜の反省も踏まえてご意見を伺わせていただければと思うんですが。

まずは、柏崎刈羽の方をお呼びするというのは当たり前の話ですけれども、特に住民の方をお呼びするというのは、これはもう100%ですよね、オーケーですよね。新野さんについては、本当に次回もご出席いただきたかったところですけれども、何といっても12月はちょっと大変だろうということで、透明の会の方をご推薦いただくということで、同じようなお立場の市民の方に来ていただく、これはまず問題ないと思うんですね。

もう一つは、この間、まさに風評被害のお話が出たわけですが、観光協会、内藤会長においでいただいたんですけれども、次回も観光産業の観点からお話を聞くのか。それ

から自治体ですね、これは柏崎市においていただきましたけれども、被害の実態も柏崎市の方が非常に大きいということはあるんですが、ただ、刈羽村にも発電所敷地はかかっているわけで、両方にかかっているので、場合によっては、私としては刈羽村からも、自治体お二人というのもない話ではないなと思っているし、どちらかお一人にするかと。それから東京電力も、若干この間はご説明が長くなってしましましたので、前段の部分はなしにして説明の内容を減らしていただいて、中越沖地震、柏崎刈羽発電所にどういう被害があって、どう対応できたか、できなかったかということを中心にお話していくだくような形でやはり東京電力には来ていただきたいと。ここまでがまず1つの検討事項ですね。

それと私の方の意見を先に言ってしまいますけれども、今も若干立地地元とのギャップの話がちらっと出ていましたけれども、横浜の経験を踏まえると、場合によっては、開催地の方というのは、会場からの質問というかご発言をメインにしていただくようにしてもいいんじゃないかというのが私の1つの考え方。それとあの内容でやはり赤裸々な柏崎刈羽の実態をお聞かせいただくときに、やっぱり地震の専門家と放射線の専門家というのは、いろいろご質問もあって必要だろうと思ってお願いをしたんですけども、横浜の経験からいうと、柏崎刈羽住民、自治体、東京電力に徹底して聞くという形の方が明確になるのかなというのが事務局経由で私のメールが行ったと思います。反省というか提案だったんですけどもね。ここからは皆さんのご意見を伺っていきたいと思いますけれども。

最初に申し上げよう、市民の方はまず問題ないですよね、柏崎の住民の方に来ていただくのは。これは1人じゃなく2人でもいいぐらいだという感じもしますけれども。

吉岡さん、何かありますか。

吉岡委員 全体として言いますと、新野さんが来られないのは残念であり、彼女が横浜の後半に言わされたことは、あそこをもっとふやしてくれれば物すごくおもしろい話になったんじゃないかなと思って、また次回というようなことを期待したいと思うのですが、副会長さんが来られるということには、何の異存があるものではありません。

中村座長 地域によってちょっと被害の差はあったみたいなんですね。

吉岡委員 刈羽の方が人口比でいうとつぶれた家が多いですよね。人口比は20倍違いますから、壊れた家のパーセンテージの差というのは柏崎の三、四倍だったと思うんですけれども。

中村座長 住民2人ということだと、副会長の方は柏崎の方でしたっけ。

事務局 そうです。

中村座長 そうですね、だから副会長が来ていただけるとすれば、もう1人はもしあ呼びするとすれば刈羽村からお呼びするというのは1つありますね。

吉岡委員 続けますと、東電からは当然来ていただけます。富山住民代表、代表というのとは変な言い方ですけれども、富山の人というのは余り知らないんですが、問題意識のある人が見つからなければなしでも仕方がないかなと思いますけれども、何か昔、核防災について、富山大学の方から相談受けたことがあるのでないわけじゃないと思います。もし必要ならばその手の情報を持っている知り合いはいろいろありますので、情報は提供いたしますが、問題意識のある人ならば出してもいいかなというような気持ちです。北陸電力は、どうなのかな、実は今後の最大の問題というのは、運転再開なんですね。

どこまで傷んだかということです。志賀の場合にはそれに加えて臨界事故を許していいのかということも、もしかしたらあるかもしれませんけれども、こういう運転再開問題は富山の西の方も東の方もあるので、それが恐らく一つの論点になるんじゃないのかな。再び動かしていいのかというのが知りたい情報だと思いますよね、これは。その点からいえば、金属工学の専門家も候補となり得るんじゃないだろうか、もちろん地震耐震も重要ですけれども、そういう人が1人ぐらいそちらの話もするというようなことが可能なのではないかと。私は何人か知っていますので、必要ならば提案させてください。また、専門家の方を呼ぶ場合には、具体的な防災あるいは災害への対応というようなことに重点を置いて話してくれませんか、ぐらいの頼み方がいいんじゃないのかなと思います。

以上です。

中村座長 今のでちょっと明確じゃなかったのは、北陸電力からは参加いただかなくともよいということですか。

吉岡委員 そうです。

中村座長 という吉岡委員のご意見ですけれども、ほかには。

新井委員 私は、北陸電力からは呼ぶべきじゃないかと思っています。何か人の庭先を借りてしているというような感じで、志賀原発もあるわけですから、質問に出てくるような状況にあったときに答えられるような態勢みたいのが必要じゃないのかなと。別に発言してもらうことは必要ないんでしょうけれども。何せ隣の県の話だし、供給エリアも違うわけで、何となく違和感がありませんかという意味で北陸電力の人をおられた方がいいんじゃないかと思ったまでです。

中村座長 はい、東嶋さん、どうぞ。

東嶋委員 私の意見は、まず、住民代表は地域の会の副会長、そして刈羽の住民の方と、2人ということに賛成です。そして防災の関係者、行政の方、柏崎の方か刈羽の方かどちらかお一人で都合のつく方がいいのではないかと、刈羽村の行政の方に参加いただくのもいいんじゃないかと思います。

そして風評被害の関係についてなんですけれども、観光の、先ほど風評被害の話もありましたけれども、地元の方への影響について、聞いている人たちもそんなのがあったんだということで新しい発見もありましたので、観光協会からもう一度来ていただくか、あるいは1人は商工会議所関係というか経済関係の方にお一人来ていただいて、ですから柏崎刈羽関係は4人ではいかがかと思います。そして東電の方、それから富山の方は、吉岡先生がおっしゃったので賛成です。ただ、やはりパネリストとしてそこに並んでやりとりをするというよりは、新潟の方の話を聞いていただいて、第2部でたくさん質問者を、なるべく多くの富山の方からご意見を伺うという、質問していただくなりご意見をいただくなりした方がよいのではないかと思います。北陸電力さんは、オブザーバーという形で出ていただいてはどうでしょうか。

それから地震耐震、放射線の専門家ですけれども、耐震とか地震のことについてある程度決まりきったお答えができるのかなと、その専門家の方がいらっしゃらなくてもできるのかなと思いますが、放射線について素朴な不安とか疑問を聞かれたときに、だれが答えるべきなのかそれを決めておかないと、質問されて答えないわけにはいきませんので、そのところだけ決めておいて、あるいはオブザーバー的に控えていていただく

のか、原子力委員会のどなたかに答えていただくのか、それは考えておくべきだと思います。

以上です。

中村座長 少しずつ見えてきましたが、ほかには。

浅田さん。

浅田委員 アンケートの結果を見て、柏崎観光協会会長からの発言がよかったですと、心を動かされた方たちが多かったように見受けましたので、そのようなお話をしてくださる方は入っていただいた方がいいのではないかと思いました。

それから、横浜の場合は、東京電力の供給エリアですよね。だけれども東北電力管内の柏崎刈羽で発電しているという、ちょっと複雑な関係になっていますので、東京電力の前段の説明というのはとても意味があったと思うんですね。ですが、富山は発電と使っている人たちが大体一致しているので、東京電力からの説明いただく内容はぐっと少なくなくてよいということが言えると思いますが、北陸電力の説明も必要になる可能性が確かにありますので、北陸電力さんとその専門家の方たちお二人はオブザーバーあるいは有識者ということで、パネルの発表はなく関係のときにご発言できるような形でいていただけだと安心なのかなという気がいたしました。でも原子力委員の方でそういうかわりをしていただけた方がいらっしゃるんだったらば、私がちょっとそこら辺のところがわかっていないので。一番悩むところが、市民の代表、富山の、どうするかということですが、私はぜひ探していただきたいなと思います。といいますのは、市民参加懇談会ですので、会場だけの市民というのでは弱いのではないか。パネルに市民にいていただきたい。そのことによって、多分会場にもその方のお仲間みたいな方が来るだろうと思いますので、そういう意味からもぜひそういう方を探していただいて、テーブルに入っていただきたいと、そんなふうに思います。

横浜の場合は、市民参加懇談会とはいいつつ、エネルギー関係者が多かったと思いますが、多分パネリストの方のお仲間はいらしていたということがありますので、そういうことからもいいのではないかと思います。

新井委員 もちろんストレートではないんですが、教育関係者とか消費者団体の人というのは、市民代表とかぶるところはないんですね。何となく現実に市民代表というの結構難しいのではないかという感じもしますけれども。

中村座長 市民代表というよりは富山県側ということですね。

吉岡委員 地元の方々ぐらいにしたらどうでしょうか。

中村座長 これは我々の今打ち合わせのメモだからいいけれども、そうですね、自治体は住民代表かということになるけれども。富山の方々ということです。

中村座長 これは事務局が恐らくお声をかけるときの入り口として市民グループであるとか商工会であるとか、消費者団体であるとかという意味だと思います。特に何かを想定してこれとこれというふうに考えているわけではないと思います。接触する接触口みたいなところだと思います。

小川委員。

小川委員 私もほとんど浅田さんと同じ意見で、柏崎観光協会からのご登場は地元の方のお仕事をやっている方にかなり参考になるのではないかと思います。また、地域の会からも出ていただいた方がいいと思います。東京電力さんについてもやはり若

干短めにしていただいて出ていただくと。

それから富山市の住民の方々も出ていただいた方がいいと思います。北陸電力さんはオブザーバーの形で、参加していただくという形が望ましいと思います。それから地震耐震設計の専門家の方は、必ずしも出席でなくてもよろしいんじゃないかなと思います。それから、放射線の専門家はいらした方がいいと思います。

以上です。

中村座長 じゃあまたコメントしていただくことにして、ちょっと今までのご意見の中で、納得できる部分と納得できない部分があって、富山の方々をパネリストとして参加していただいたとして、この中越シリーズの場合、何といったって柏崎刈羽の人の発言というのが圧倒的な迫力があるわけで、どうパネリスト同士でかみ合えるかとなると、相当負担ですよね、それができる人というのは。それよりも、第2部で活躍をしていただけで、パネリストとして参加していただくよりも会場からどんどん発言していただく方が発言もしやすいし活発化するんじゃないかなと思っているんですけどもね。

小沢委員 ついでに言えば、東電の人も質問が出たら答える形にして、パネリストの中に入れない方がいいですよ。

中村座長 パネリストというよりは経過報告者だからね。東電さんの立場というのはね。

小沢委員 地震があったことは事実なんだから、それについて現場の人が話して、それに対する対応はどうだったんですかというような質問があったら答えていただくと。

中村座長 それで今、確かにパネリストというのはやっぱりもうちょっと厳密に考えた場合に、今回の場合は、事実関係の報告というお役目をお願いしているので、そうなると、例えば東京電力と柏崎市にはまず報告者になっていただけて、こういうことがあって、こういう経過で我々としてはこういう対応をしましたという事実関係を報告していただくという役割を自治体と東京電力に頼むというのも1つ方法としてあるかなと。パネリストとして生の声を聞かせていただくのは、本当に住民の方プラス商工関係あるいは観光関係、まさに被災者の立場からという、そういう絞り込みもあるなとは思うんですけどもね。

吉岡委員 私の意見は、東京電力は埼玉県でやったときにも説明が長い傾向がありましたので、あまり長話はしないよう釘を刺す必要があります。やはり防災に関して実質的に特に初期において一番重要な役割を果たすのは自治体だと思いますし、自治体はパネリストに入れても構わないのではないかと思うかと思います。東電さんには時間厳守でお願いをするという形にしてはどうでしょうか。

中村座長 ただ東電についても単に報告者でという役割もちょっとおかしいんだよね。だって具体的な要望とか質問とか、批判とかが当然対象になるわけだから。

小沢委員 本当は新野さんと東電の間で出たりするような、そんな関係でもよかったですんでしょうけれども、あれには余り答えない。こういうやりとりはもうちょっと違う形でできたんじゃないかなと、地震は経験した人に、会場の人、会場の人というけれども、会場の人が経験していないのにそのとき怖かったですかと聞くわけにいかないじゃないですか、スポーツアナと違って。

中村座長 聞いてもらっていいですけれどもね。

小沢委員 でもそういうふうな聞き方をしないとすれば、やっぱり今までのと少し形

を変えないとダメだと思いますよ。当事者同士が議論し合ってくれると一番いいんですけれどもね。

中村座長 なかなかそうはいかない部分もある。ただ、東京電力に単に報告者だけの役割をしてもらうのは違うかなと。

小沢委員 聞く分にはそれはいいと思うんですよ、座長の方からもかなり具体的に聞くことができるでしょう、この辺のこと。むしろ座長が整理してくれた方がいいんじゃないですか。

中村座長 その辺で同じテーブルにいるのがいいか同じテーブルにはいない方がいいかというところですよね、次はね。何となくやっぱり自治体と東電は同じテーブルにいた方がいいのかな。やりとりの中で、確かに横浜では東電には事実関係のご説明という役割をお願いしたので、そのところがちょっとメインになってしまったかなというところはあるので、オブザーバーをお願いすることもわかるんですけども、でもそうすると本当に何かちょっと役割を逆に軽減させてしまうのでは。

小沢委員 原子力発電所自体が経験者として実はあそこが燃えたときは大変だったんですとか、普通のお家でみんなふうにちょっとどっかが沈没しちゃって、水をいっぱい出そうと思ったら出なくて、燃えちゃったと。そしたら普通だったら物すごく怖いでしまう。だけれども、あそこの場合は、あの程度で済んでよかったよかったというふうに言わないと、外側でよかったですし、みんなほかのところはあれだからみんな写真はあそこばっかり撮ってきましたというふうな言い方をして答えなきゃいけないから、相当やっぱり姿勢が違うんだと思うんですよ。起こったことはまだほかにもしかしたら物が倒れたとか、あったんだと思うんですよ。中でもこんなものがぱたぱた倒れるとか、書類棚が倒れるとか、でもそういうことよりも違うことを言わなきゃならないでしょう。そうすると、やっぱりやや違うんじゃないかと思うんですよね。そうすると、あの人は安全だったことの証明をしているので、被災したいろいろな物もごたごたになったようなことの一人としているわけじゃないから、ちょっとやっぱり違うような気がする。

中村座長 でも新野さんの後段の発言なんていうのは、明らかに東京電力に対しても、それから自治体に対してもやっぱり住民としての不満というか不安を醸成した原因はそこにありましたよということを指摘しているわけだから、そういう意味ではパネルディスカッションになっているんだよね。

小沢委員 違いますと言ってくれるとね、自治体とか東電がね。

中村座長 いや、でもそれはおっしゃるとおりで、これからはそれを糧として言うしかないわけで。防災無線も使ったし、FMも使ったんですけどねと。広報車も走らせろと言われたら、そうでしたねと言うしかないでしょう、それはそれで。

小沢委員 でも走らないですよね。

中村座長 でも走らないですよね。そこに問題はあるんだけれどもね。地震災害なので、広報車は多分走らなかつたので、それはそれなんだけれども。でも要望は要望で、やっぱりあらゆるいざとなつたときはきめの細かいことが対応として必要ですよというのはよくわかったと思うんですけどもね。そのあたりのところで、オブザーバーとか説明者というふうに位置づけるというのは逆に言うと簡単な話なんだけれども、そうしゃっていいのかなというところはありますね。

吉岡委員 東京電力さんからは、災害に対処された当事者を呼びたい、来てもらうな

ら所長ですね。所長かそれに準ずる立場の人がどう対応したかというような、そういう生々しい話をしてほしい。当事者の司令官に来ていただくというのはやっぱり私としては興味があるなど。

中村座長 それはちょっとあちらはあちらの事情があるので、ちょっと事務局の方から。

事務局 当初、お願いしましたときに、やはり原発の耐震安全性に焦点を置くのか、それとも広聴・広報の出し方に焦点を置くのかでやっぱり担当する部署が全然違っていて、実は東電の中から技術的な話がわかる方、所長さんとかですね、そういう方とともに広聴・広報の話がわかる、本社機能的な方と、両方とも出してほしいというお願いを実はされておったんですが、今回はどうしてもお一人ということで、お願いしまして、今回のような形になったという背景は一応ございます。

東嶋委員 やっぱり吉岡先生おっしゃったみたいに、東京電力からは、そのときの地震の揺れに見舞われて怖かった、ああだったという体験をお話いただくのがいいです。そもそも趣旨は市民参加懇談会、市民の意見を聞くということで、そして新潟の地震を被災した現地の方の意見を聞くということなので。

中村座長 ですから、横浜の経験も踏まえて、ハードウエアのことであるとか実際の体験を語れる人の方が東電の場合もありがたいというのが今回の反省点だから。発電所のしかるべき人に来ていただくということだと、僕はやっぱりオブザーバー報告者というんじゃなくてやっぱりパネリストにした方がいいと思うんですよ。ただ、ざくばらんにお聞かせくださいって、やっぱりそうはいかないですよ。それで大体そういうことで東京電力もパネリストになってもらう。もう住民については決まりなんだけれども、最初の案で東嶋さんも言われた地域の会の副会長プラスもう1人できれば刈羽の方、このあたりもいいですよね。それから自治体お一人、これはやっぱりこの間の話を聞くと、やっぱり対応の規模が違うから柏崎でいいのかなという感じはしましたけれどもね。いわゆる市のレベルであれだけ被災してどう対応できたかということを話してもらえるから、自治体は柏崎がいいかなと。

今お話を伺っていくと、柏崎観光協会に限らないなんだけれども、やっぱり商工会関係の方はお呼びした方がいいというふうに思いますね。単に観光客だけじゃない部分ももうちょっと産業を広くお話ししていただかのが第一希望ですかね。

新井委員 どうなんですかね、市民の人は観光みたいなのをぱっと分かるのでしょうか、そこまで広げて聞いている人はどうなんですかね。

中村座長 かえってわからないですかね。

新井委員 なかなか抽象的な話は嫌がられますよ、数字的な話とか、産業の状況がどうとか、どうなのかな。

中村座長 ただ、この間の内藤さんの話でも、いわゆる風評被害というのは何となく漠然としていたんだけれども、それから観光客が来なくなったり、キャンセルが相次いだというあたりまではふむふむだったんだけれども、やっぱり柏崎の魚を出さないでくれと言われるあたりから、やっぱり会場の人も、えっ、それは何ということになったでしょう。だからその辺のところで、農産物、海産物がどのような話が出ると、難しい話というよりは少し消費者にとって身近な話に逆につながるかなと。旅館がキャンセル相次いだとか温泉がどうの、花火大会がどうのというより、そっちの方が逆に身近な

かなという。

本当に地震で行かないのか、余震が怖くて行かないのか、発電所が被災しているから行かないのかというのは本当にわからないから、余り観光、観光で聞かない方がいいのかなと逆に感じたんですけれどもね。

新井委員 商工会議所ですか。

中村座長 窓口はちょっと僕もわからないので、商工会がいいのか漁協、農協がいいのか、何か青年会議所みたいなところがいいのか、その辺はちょっとわからないので。

小沢委員 自治体のあの人人に聞いてみたらどうですか、そういう話の方がいいんじゃないかと思うけれども、市役所あたりが掌握しているんじゃないですかね。

中村座長 そうですね、ただこっちの意図としてはそういうことですよと。産業界の被害というのを。

新井委員 でもそれだったら、少しずつストレートに続けられたら農協でも漁協でもいいですけれども、現場の人がいいですよね。ワンクッション置かないでね。

中村座長 了解事項として一応そこまでパネリスト、東京電力も条件つきで加わっていただくというところが来て、さあその次なんですけれども、さっきから言っているように、富山の方々についてですが、特に1部をもうちょっとコンパクトにして2部をしっかり1時間以上とろうと思ったら、2部をやっぱり活性化させなきゃいけないので、パネリストで出ていただくなりも会場からどんどん発言をしていただこうとの方が、2部は時間が短かったとアンケートが随分あったけれども、余り議論に発展するような発言をうまく引き出せなかつたというところもあるから、だからそれだけに2部の方では活発に発言していただきたいので、1部はとにかく富山、高岡の皆さんも柏崎刈羽の話を聞いてくださいよという1部、2部の分け方にした方が2部の方がしり切れトンボにならないかなという感じはするんですけどもね。

小川委員 だけれども、多分会場から発言してください、だから来てくださいとのではちょっとなかなか来ない、弱いと思うんですよ。半分は人を、お仲間を連れてきてくださるためにセンターテーブルに来ていただく、これが意味があるんですよね。

中村座長 それはだけれども単に集客の話であって、こっちが聞きたい、パネルディスカッションをやりたい趣旨とは違うわけよ。

小川委員 確かにそうですが、でも多くその方々の仲間にも来ていただきたいというのも。

中村座長 だからどっちを優先するかだよね。

小沢委員 仲間がいるんだったら、何もパネリストにならなくたって来るじゃない。

小川委員 パネリストになるからこそ呼ぶというか来てくれるんだと思うんです。

浅田委員 富山市民を呼ばないということにまだちょっと納得できない部分があって、固執するつもりもないんだけれどもまだ納得ができないというところがあります。それで横浜と富山はやっぱり状況が違うでしょうと。発電所は県内にはないけれどもすぐ近いところにあるし、地震もかなり大きく経験した土地でしょう。

中村座長 富山はない。

浅田委員 県民としては。

中村座長 ない。石川県だもの。

吉岡委員 高岡には能登から流れてきて定着した人が少なくなくて、私の先祖もそう

いうのだけれども、あちらの方に親近感があって、距離的にも金沢まで30分ぐらいで、柏崎だと2時間かかるんですけれども、そことの距離感はかなり近い。あるいは逆に金沢の人が原子力委員会が富山まで来るなら見に行こうかとか、恐らくそういう形で反応が出るということもあり得ると思いますので、だから富山県人もいいんだけれども、もうちょっと西の方の人を探せば、たくさんいると思うんですよね。

浅田委員 そんなに本当に固執するつもりはないで、横浜とはちょっと違うんじゃないかなというところをもうちょっとこだわりたいという思いがあります。いらっしゃらなかつたらもちろん自分としても納得できるなというか、そんな気がしているんですが。

新井委員 今、住民代表というのをやっているんですね。住民代表というのは何ですか。先ほど吉岡さんのあれを受けると、風評被害じゃありませんけれども。

浅田委員 なかなか代表はできないですよね。

吉岡委員 代表はやめましょう。

新井委員 ちょっと風評被害も相当抽象的ですけれども、住民代表というのも確かに考えてみるとわかりにくいですね。

中村座長 住民代表というよりは、現実には何らかの活動をしている市民グループの代表という形になる。

新井委員 市民グループ代表というのがあるじゃないですか、下に。

中村座長 そういうことなんです。

新井委員 市民グループ代表って、これはこれで明確だから、幾つあるのか知らないし、グループも知りませんけれども。

小沢委員 新潟ももしかしたら発電所があったから怖くてしようがない、とかしてくれという人が1人いたらおもしろかったかもしれないね。

中村座長 富山もあまり変わらないかもしれない。志賀も遠いし、柏崎も遠いし、とにかく地震もないし、北陸で一番安全なのが富山県だと富山の人は思っている。

浅田委員 住みやすい第1位でしたものね。

小沢委員 小沢一郎でさえ東北で口下手で頑固だからと言っているんだから、余りしゃべらないかもしれないね。

新井委員 県民性みたいなのがあるから、富山の人はどうなんですかね。

中村座長 ふるさとだそうですけれども、吉岡さん。

小沢委員 ああいうところでしゃべるの苦手ですよ、一般の人は。それでマイクが回ってくるんじゃないなくて、出てきてしゃべらなきゃならないんですよ。あれはやっぱりね。

新井委員 やっぱりなかなか横浜もすごかった、何となく特別な人が話されているという印象を持っちゃうから。

中村座長 やっぱり立地地域なんか原子力関連施設、身近に感じているところ以外はそうですよ、それは。都市部でもそうだし、地方部でも。それは難しいことです。

新井委員 心配しているのはそっちですよ、だから。

小川委員 適切な人がいればお願いするしかないんじゃないですか。

中村座長 その辺のまた適切な判断というのがね、どういうふうに。

小沢委員 富山のそれこそ商工会か何かの人を加えてもいいんじゃない。原子力があつたり、地震があそこで起こったり、いろいろなことの場合だったらどう考えるかというようなこと。

中村座長 ちょっとやっぱり原点を考えてほしいんだけども、開催地でそういう声を聞いてくることももちろん必要ではあるんだけども、今回はそれが第一義ではないでしょう。この中越シリーズというのは。

小沢委員 私はもともとばらけてこっちにいた方がいいと思っているんですよ、パネルにしないで。中越地震に学ぶんだからいいと思っているんだけども、みんなそれじゃ来ないとか言うから。

中村座長 僕ちょっとやっぱりパネリスト、特にこのシリーズの場合は、とにかく柏崎刈羽、実体験を持った人の生の声を広く聞いてほしい、僕らも一緒に聞きたいということなんで、それを何とかやっぱり横浜以上に充実させたいというのが第一義ね。そのときに、開催地の人を、会場の人たちの聞き役の入り口というか代表者になってもらって、何とか身近に感じてもらいたいということで地元の開催地のパネリストというのは選ぶわけなんだけれども、その考えは考えとしてわかるけれども、実際にそれは機能するのかというのが、横浜の場合を考えても、今までのことを考えてもね。

小沢委員 今までのトップダウンを固執し過ぎ。

中村座長 それでまさに小川さんなんかが言っていることは正直なところなんだけれども、ほかの催し物でも開催地の人をパネリストで上げるというのは、集客も期待しているという形の方が多いので、一般的のテーマのときだったらそういうあり方も悪くはないなんだけれども、今回のこのシリーズについては、とにかく中越が何であったのかということを聞いて広く一緒に考えようと。何とか自分たちの問題意識の中に取り入れてもらおうというのが趣旨なので、それだとあえてパネリストとして住民グループ代表に参加いただかなくてもいいんじゃないのかなと。関心がある人は来てくれるんだから、第2部で手を挙げてくれるでしょう。

小沢委員 パネリスト以外は全部地元だと思えばいいんです。

中村座長 そうなんだよね。そういう考えではどうだろうというのがもともとの考えなんだけれども、どうですかね。物理的なことを考えても渡辺さんと刈羽の方があるいは柏崎の方、いわゆる市民の方でしょう、自治体でしょう、商工か産業関係の方でしょう、東京電力でしょう、これだけでもう5人いるんですよ。

東嶋委員 今、富山市民のことでもめているのでそれは置いておいて、専門家をどうするかを決めたら、専門家が入るんだったらもう既にパネリストは6人になっちゃって、この間もパネリストが多すぎて1人1人がお伺いする時間が短いので。

中村座長 短くない、みんな延長して。

東嶋委員 延長しちゃって2部が少なくなっちゃって、だから2部で富山の方のお話というか意見なり質問なりをじっくりとということにして、とりあえず5人いらっしゃるんだから、まず専門家をどうするかを先に決めたらどうでしょう。専門家は1部では意見発表をしていただかなくてもいいと思うんです。

中村座長 それでさっき、オブザーバーという折衷案が出ていて、それで北陸電力、放射線専門家、地震あるいは吉岡さんのように運転再開のことは、金属関係の専門家もいるという話もあったけれども、何らかの専門家と北陸電力の場合についてはどうなんだという声は上がる可能性はあるから、オブザーバーで来ていただくということでひとつくりするかというのもありますよね。

小川委員 1部の発言はないけれども、紹介だけはすると。

中村座長 だからパネリストではないということで、パネリストの方はもう絞り込んだ方がいい。

小川委員 パネリストは上の3までですよね。要るとなれば。富山市民がちょっとあれですけれども。

中村座長 また戻る。それはなし。

新井委員 なしにしちゃうんですか。

中村座長 なして考えても5人いるんですよ、既に。

新井委員 ただやっぱり常識としては必要なんじゃないですか。単純な常識ですけれども。

小川委員 意味があるかないかというよりも、ここにいて、いることが必要。

新井委員 確かに感情的な問題だから、いなくて構わないんですけど。

小川委員 会場に来た人にもなぜという、単純な疑問が出てくると思う。

新井委員 私なら思いますね、関係ないよと。

小川委員 じゃあ何で富山でやるのみたいな。

小沢委員 だって来ている人は全部富山なんだってば。

中村座長 だけれども全く逆のことも言えるわけで、だれだか知らない人が1人富山の代表ですと立っていることに逆に反発は感じないです。

小川委員 だからそこでは富山の代表というよりも地元からこの方がということですよ。

新井委員 消費者団体でも何でも知りませんけれども、1人ぐらいは入っていただいたらどうですか。

小川委員 その方が富山を代表するのはそれは無理な話ですから、地元の方に来ていただきましたといった形で。

中村座長 しかし、一部では、柏崎の話を集中的に聞きたいよと思ったんでね。

吉岡委員 やはり富山の方はいた方がいいと、必要なら私が探ししましょう。

新井委員 なかなかそれは皆さんみたいにお話に慣れている人ばかりじゃないわけですからね。ただ、いらっしゃってくれるだけだって、それはそれなりに意味があるということがあるわけですから。私だって会なんかで発言するのは大嫌いですから。本当はしたくないんです。常識としては、私はいた方がいいのではないかと、これはそうと思うだけです。

小川委員 やはり一般に聞いていらっしゃる方は、そんなにシビアなちゃんとした発言とか、そこまでの高いレベルをお求めになっているわけではないと思うので、地元の人が1人いたらいいんじゃないかなと思うんですけどもね。

小沢委員 入場制限しているわけじゃないものね。どんどん来ていただくようになられた方がいいんじゃないの。だって富山でやるんだから富山人でしょうが、来る人は。

新井委員 もちろんそうですよ。だからその中で1人、我々が入ったって別にいいでしょうというだけの話であって。

中村座長 いかがですか。皆さんのご意見がそれならば。

1つは、専門家、北陸電力についてはオブザーバーとして必要なときに、ご質問が出たり、何かしたときに別席でお答えいただくという役割にしましたから、前回よりはパネリストは絞り込めるので。柏崎刈羽の方を1名ふやしていますから、そのところで

は充実度は高いと思うので、皆さんがあれで市民グループ代表のような富山の方をお招きした方がいいということならば当たってもらいますけれども。お呼びした方がいいですか。

小川委員 いいと思います。

中村座長 わかりました。

東嶋委員 パネリストの数が6人になるというのは多いのではないかと。

中村座長 じゃあ5人で絞るかというね。

東嶋委員 こちらは何人でしたっけ。こちらもかなり絞られたんですよね。

中村座長 こちらも少ないんだよね。はっきり言ってそれもあるのね、見たバランスでね。こっちかフルメンバーで例えば9人いて、パネリストが5人か6人だと何か詰問しに来たのと見られるというのもあるので。

事務局 専門委員は5名でございます。

東嶋委員 こっちが5人なら6人でもいいと思います。

中村座長 それじゃあ、皆さんのご意見を伺って、やっぱり市民グループの代表のような地元在住の方をパネリストにする方が一般的であろうということで、ふさわしい方がいらっしゃった場合にはパネリストとして招聘しようということにします。

吉岡委員 推薦する場合は、二、三日中ぐらいまでですか。

中村座長 そうですね。なるべく。

吉岡委員 打診してみます。

小川委員 じゃあ私も聞いてみます。

中村座長 参加の意欲がおありになればありがたいんですけども、それをパネリストとして出席していただけるかどうかというのはまたちょっと別だからね。

では、そういうことでお願いします。

中村座長 柏崎刈羽関係4人と東京電力プラス富山県在住の方という基本線です、パネリスト。それでオブザーバーとして一応地震放射線の専門家、北陸電力とご出席を願うと。

事務局 1つだけ事務局からよろしいですか。

北陸電力は、当然管内の話だから説明責任があると思うので、お願いしたら、説明なくても何か質問があったら答えろという形で出てくれると思うんです。地震の専門家と放射線の専門家は、質問対応だけということでお願いするのはちょっと非常につらい、我々からお願いするのはつらいところがございまして、富山まで行ってもらいますので。

新井委員 富山にはだれもいないんですか。

中村座長 地震はいないんですね、いないんですよ。

新井委員 何も聞く方もそんなに横暴な話ではないんだけれども、放射線や何かのときに困りませんかというのだけですよね。

中村座長 放射線は昔、金沢大学にいましたよね。

小川委員 市民の質問だったら、北陸電力さんが答えられる。

事務局 北陸電力さんや東京電力さんにお願いするという。

中村座長 そうですね。それはもうテーマの話じゃなくて、それは招へいする側の失禮でないかどうかという話になってくるから、そうなったらもう基本的に専門家は今回はやめて、普通の放射線のこととか耐震設計の話なんかは北陸電力なり東京電力なりに

答えてもらうと。それから大きな耐震設計の話になったら、これは委員会の方から、国としては今こういうことでという説明までしかできないと思うので、これはもう原子力委員会の委員にやっていただくと。

新井委員 それでいいんじゃないですか。

小川委員 いいと思います。

中村座長 我々がとにかく答えるというのはまたおかしな話だから。じゃあ今回はそういう形にしましょうか。北陸電力さんについては、パネリストではないんだけれども、非常に広範囲にわたってご質問があろうかと思うので、オブザーバーとしてぜひ出席をしていただきたいというふうにお願いをして。

浅田委員 二、三人いらしていいですか。

中村座長 それはもうそちらのオン・ユア・リスクで何人連れてきても構いませんという感じだけれども。だから地震放射線関係についてはそういうことで、電力として、事業者として答えられるものについては答えていただく。それから国として基本的な方針であるとか現在の作業状況であるとかを説明するものは原子力委員の方からやっていただくと。

事務局 もちろん地元の近くでそういうことをやってもらえるという人がいればちょっと当たってみますけれども、そうじゃなければ、今のラインで。

中村座長 基本的には対応はそういうふうにすると決めておいた方がいいですね。じゃあそういう対応でやらせていただいて、パネリストは5人ないし6人に絞り込んだ形でやるということでじゃあお願いいいたします。第2部の会場からのご意見発表、ご質問をなるべく活性化させると。現時点では委員出席5名ですけれども、小沢さんも予定がついたらぜひご出席をしていただきたいと。

小沢委員 前日、関西、大阪にいるんです。

中村座長 近いですよ。大阪からすぐですよ、特急で。

じゃあそういうことで、会場は今、ホールがとれそうということだったんですけども、前回と同じようなレイアウトは一応可能ですか。

事務局 はい。

中村座長 それでは、あの形式の方がいいですね、真ん中に我々がいてという。じゃあそういうことで、ちょっと長くなっちゃって申しわけなかったんですけども。

浅田委員 チラシの後ろはあのままでいいか議論しなくて大丈夫ですか。私、ちょっと前回言ったので責任を感じているということもあって。

小川委員 チラシも1カ月前だからできているんですよね。

事務局 こちらにまた工夫したチラシをご相談して皆様からご意見を。

小川委員 これからですか。

事務局 はい。

中村座長 質問はいいんじゃないですか。一応吉岡さんのご意見も入っているし。受けとめ方はあれだけれども、少なくとも100近く横浜のときももらっているわけなので、事前に。ということは質問はちゃんと伝わっていたということなので。

浅田委員 じゃあ富山でもフィットするわけですか。

中村座長 一般的な質問ですからね。

じゃあ、ということで富山を進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

それで申しわけないんですが、時間がなくなってしまったんですが、その次なんですよ。その次のことも考えなければいけないので、これはまたちょっと別に場を設けなきゃいけないと思うんですが、ちょっと現状と、それから現在、ちょっと事務局で案を練ってもらつたものと、それから周辺事情ですね。ほかにこの種のシンポジウムなり催し物というものが企画されているので、それとの関係もあるので、ちょっとその事実関係だけ皆さん頭に入れておいていただいて、これはこれでまたちょっと別途協議をしたいと思います。現時点での資料説明をちょっと事務局、簡単にお願いします。

事務局 それでは、資料第3号に基づきましてご説明させていただきます。

次々回ということで、とりあえず2つテーマを考えさせていただいております。時期といったしましては、来年度、19年度内ということでございますので、来年の2月から3月程度かということを考えてございます。

開催内容としましては、一案としましては、今回の中越沖地震に学ぶシリーズということで、地元柏崎、刈羽村あるいは新潟市でやるかということでございます。ただ、これは2月か3月でやってできるかどうかということにつきましては、やはり地元の意向も極めて重要なかと思いますので、そことの調整も必要かと考えております。

また、他省庁、原子力委員会以外でもやはり中越沖地震に関しましては結構シンポジウム等いろいろ計画をされておりまして、例えば来年の2月でございますけれども、これは東京の方で、これは原子力安全委員会などが主催をして公開のシンポジウムを開くという話を聞いております。ですから、ここと時期的にちょっとかぶる部分があるということ。あと地元の方では、こちらは専門家会合でございますが、同じくまた来年の2月ぐらいに地元での専門家会合が、これはテーマは耐震安全性ということで開かれるというお話を聞いております。

また、ことしの11月ぐらい、今月でございますけれども、これは東京でJNESによる公開シンポジウムが開かれますという予定もあるというふうに聞いております。

また、来年になりますと、来年の前半でございますけれども、IAEAの第2次調査団が地元の柏崎原子力発電所に来るというような話も聞いておりますので、ここら辺との関係というのもあるかもしれません。周辺情報としては、そのような情報が今のところ入ってきております。

また、第2案といたしましては、時期的にタイミングが余りよろしくないということでございまして、例えば高レベル放射線廃棄物の処分ということで東京あるいは地域で市民参加懇談会を開くかということを1つの案として考えております。

ただ、実はこれ政策評価部会を今、原子力委員会の中でやっておりまして、この中でも実は高レベル放射線廃棄物のところが評価のテーマとなっておりまして、ご意見を聞く会を開くとすると、やはりこれは時期的に2月とか3月ぐらいになつてしまつという事情がございます。時期的に重なる可能性があると。ただ、これはご意見を聞く会の場合には、あくまで政策評価の結果についてご意見を聞くということでございますので、テーマによって分かれる、あるいは場所が例えばどちらかを東京、どちらかを地方にするとか、そういう役割分担は可能かということは考えております。

一応現状は以上でございます。

中村座長 それでまだほかにも皆さんはこれをやるべきというテーマをお持ちかもしれないし、中越沖地震に学ぶを新潟県のどこかでやるについては、ちょっと受け入れ側

というか開催地側のご意向もあるので、それを確かめなければいけないというところがあります。

小沢委員 どっか全然何もやっていないところというのは立地にないの、立地地域に。全然みんな柏崎、この辺に集中しちゃって、ずっとやっているのもちょっと余りいけないんじゃないとか。

中村座長 それで本当にきょうは議論する時間がないので、できればちょっと押し詰まってしまうんですけれども、富山が終わった後、年末までの間にでも一度この委員会を開いていただきたい、議論をしないといかんなと思っております。その参考までなんですかけれども、中越沖地震に学ぶシリーズについてはそういう課題が1つあると。

もう一つ、高レベル放射性廃棄物の最終処分というのは、懸案のテーマではあるんですけども、ただこれをやる場合、僕の考えなので、僕の考えだけちょっとお伝えしておくと、それをまた皆さんでご議論していただきたいと思うんですが、この場合だと、知りたい情報は届いていますかという呼びかけよりももう少し何か適当なものがあるかな、つまりもうご存知ですかみたいな世界だと思うんですよね、一般には。ただ、高レベルについてはやる意味はあると思っています。

ただし、もし市民参加懇談会をやるとすると、ピンポイントでどこかで1回というのは、何かそぐわないような気がするんですね。何でという。それは東京、大阪でやってもそうだし、どこか立地点でやってもそうだしと思うんですね。ですからもし市民懇が最終処分を扱うとしたら、7カ所とか10カ所とかというのを1年間なら1年間でシリーズにして、毎月のようにどこかでやるというようなことで、今年度から来年度にかけてどんどんやっちゃうというようなことでプランを考えないと、何かうまくいかないような気がするんですよね。年に1カ所か2カ所やってというのは非常に不自然な感じなものになっちゃう。

小川委員 北なら北からさっさっと物理的にいかないと。物理的に2カ月に一遍でいいです、月に一遍は大変かも。

中村座長 少なくとも2カ月に一遍ぐらいで、今年度から来年度にかけてで7カ所とか、場合によっては10カ所とか。

小川委員 時間がないからそういうやり方をしているんだと思うんです。

中村座長 ちらっとこの間、近藤委員長に聞いたときも、予算等のことについては、ブリッジをしてでも継続事業はやれるというニュアンスだったから、そういう提案なら通るのかなと思っています。もしそういうふうにやった場合に、今、この事務局の案にあるように、原子力関連施設のある立地点がいいのか、それともそれを抱えている地方の中核都市がいいのか。県庁所在地というか中核都市、そこでみんなが使った電気の最後が今テーマですよというので最終処分という話を、オールジャパンで理解を持ってもらうというつもりでシリーズでやっちゃうと。

新井委員 ただ、これどうですか。聞いている側でこれについて意見を述べたり質問するという人はいますか。

中村座長 質問する人はいると思いますね。ただ、意見はわからないです。

新井委員 しかし、かなり高度な勉強をしている人以外にはまず無理じゃないですか。高レベル放射性廃棄物って皆さん勉強して集まるというのは常識として、原子力だってなかなか難しい、ここまで来たときにですよ。大事なことだけれども、市民側から意見

が出てきますかね。

小沢委員 私はこれをやったんだけれども、新井さん、こっちの方が関心がある。埋めちゃうんだから、地震が来たらどうするとかね。

中村座長 本当にきょうはちょっと申しわけない、時間がないのであれなんですけれども、まさにそのところを議論しなきゃいけなくて、ですから僕も今までのシリーズの知りたい情報は届いていますかという呼びかけでいいのかというのは。

新井委員 まさにそのとおりです。

中村座長 まさにこれを含めて考えなきゃいけないんだけれども、ただこの最終処分については、どうしてもやっぱり国民的関心時にしていただかないと困るというところはありますね。ですから、その役割は果たしたいと思うので、じゃあどういうふうにしたら果たせるのか。新井さんが言われるように、今までやってきた市民参加懇談会のスタイルでは多分できないんだろうと思うんですよ。だから初期のころにちょっとあったような少しレクチャーの会みたいな要素の入ったもので意見交換をするというような、もちろん専門家がいてという、そういうような、我々委員が市民と専門家なりN U M Oなりの、あるいは国なりの橋渡しを、こういうことをみんなで知らなきゃいけないとか、こういうことをもっと知ろうよとか、何が知りたいですかとか、そういうやり方なのかというのはイメージとして持っているんですよね。だからその辺を含めてちょっとぜひこれは一度ご相談をしたいと思っていますので、押し迫って大変ですけれども、富山が終わった後の時点でまたちょっと日程調整をしてもらいますので、アフター富山のことを皆さんでちょっと考えていただきたいと思っております。

それじゃあちょっとそこの件は話が中途半端になって申しわけないんですが、富山については基本線は決まったということで進めさせていただきます。

じゃあ最後に、事務局から連絡事項をお聞きして閉会にしたいと思います。

事務局 それでは、本日の市民参加懇談会 in 横浜の開催結果につきましては、11月13日の原子力委員会の定例会で事務局よりご報告をさせていただきたいと思います。

また、12月13日の市民参加懇談会 in 富山の開催プログラム等の詳細につきましては、追ってメール、電話あるいはファックス等でご連絡させていただいた上で調整をさせていただきたいと思います。

パネリストにつきましては、これからお声かけということでございますので、先方の都合を踏まえまして変更等あれば、改めて先生方とご連絡をとらせていただいて、調整をさせていただきたいというふうに考えてございます。

次回の市民参加懇談会については、改めて日程の方、また追ってご連絡して調整をさせていただきたいと思います。

また、本日の議事録につきましては、皆様に確認の後、ホームページ等で公開をしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

中村座長 それでは、定刻をちょっと過ぎてしまいました。申しわけありません。皆さんご苦労さまでした。

それでは、富山に出席される方は富山で、富山に出席されない方はその後の専門委員会でお目にかかりたいと思います。

きょうはご苦労さまでした。ありがとうございます。